平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ３０５ ※記入不要	提案機関名	神奈川県内水面養殖業者協議会

要望問題

モクズガニの養殖と種苗生産手法の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

相模川の中流から河口にかけて生息するモクズガニは、食べておいしく、高級中華食材である上海ガニにごく近い種類であるため、地産地消型の新たな養殖対象種として期待できます。放流用種苗が安定的に入手できれば、漁業権魚種として位置づけることにより、河口域の有効利用が図れるなど、新しい漁業の創出にもつながり、本県の内水面養殖業者にとっても放流用種苗や食用としての販売が見込まれます。モクズガニ養殖に着手したい考えを持っていますが、モクズガニの養殖技術は未だ開発されていませんので、本種の養殖と種苗生産手法の開発を要望します。

解決希望年限	①１年以内　[②]２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	[①]研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ [⑦]内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産総合研究所内水面試験場
部　　署：生物工学チーム	
対応区分	①実施 ②実施中 [③]継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名　（①、②、④の場合）	

対応の内容等

養殖については他県の民間団体等で地域振興の一環として試みられておりますが、技術的な知見は十分ではありません。また、種苗生産手法については他県の公共機関においても研究されていますが、生産効率が低く、未だ確立された技術ではないと認識しております。

これらの事と、地産地消が可能な本県の立地条件を考慮しますと、当該技術の研究を行う価値は高いと考えられます。今後、県内関連団体の技術普及先や流通体制を見計らって研究開発に着手したいと思います。

解決予定年限	①１年以内　[②]２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	